0421

【スケジュール】

4月～5月末　具体的なアプリケーションの提案.

6月～6月末　実装した研究論文（手間がかかっているものや特別な環境下のもの）

を読んでいく.

7月～ 　　　 実装のためプログラミングを行う.

【具体的なアプリケーション案】

1. 水中と陸地を接続する無線マルチホップネットワーク

養殖で得たセンサ値を陸地へマルチホップで送信.

養殖は広範囲で, 陸地から遠い場所で行っているため通信距離が必須.

1. 上空と地上を接続する無線マルチホップネットワーク

道路沿いにある建物や電柱にRouterを取り付けることで, 上空あるいは地上へ

データを送信することが可能になる.

　空飛ぶ車は, 0.1sの遅延も許されないので, 不適.

飛行機も5G/6Gぐらいの大容量通信が必要.

1. 家具（ソファ等）にRouterを取り付けて、そこを経由して家の中の物を外から操作する. 家の中と外を繋げることが可能になる点がポイントである.

例）ソファや椅子が窓際にあって、エアコンが家の中のどこかにあるとする.

　　帰宅する前に、家の付近（駐車場など）で、エアコンの電源を入れる指示を与える.

その指示は窓際にある家具のRouterを経由して、エアコンまで届けることができる.

これにより, 帰宅した時には, 家の中を夏だと涼しく冬だと暖かくすることが可能.

その逆もでき, 家の中で車のエアコンの電源を入れる指示が可能になれば, 夏場の暑くなった空気を感じなくて済む.

　IoT専用のアプリがある家電はあるが, 4G/5Gを使用しなくてはならない, 家電製品自体の価格も高くなる.